

令和五年九月十八日（月祝）午後一時始

大槻能楽堂

野口傳之輔卒寿記念  
能と囃子の会

繪馬

上田拓司 上野義雄 上田啓悟  
上田貴弘 清水皓祐 森田啓子  
上田大介

舞囃子

地謡

山田信行 大野朝義 上野朝薫

豊後下り端

左鴻雅義

一管

仕舞

駒之段 吉井基晴 水田雄三  
鐘之段 浦田保親 長山耕通  
枕之段 大西礼久 山本博祐

能

檜

大槻文藏

垣 宝生欣哉 山本哲也 野口亮  
成田達志

問 茂山千三郎

後見 大槻裕一 林本大 吉井基晴  
片山九郎右衛門 地謡 齊藤信輔 上田拓司  
赤松禎友 寺武富康之 浅井文義  
寺澤幸祐 浦田保親

（休憩二十分）

狂言

二九十八 善竹隆平 善竹隆司

仕舞

難波 浅井文義 大槻幸祐  
野宮 片山九郎右衛門 地謡 寺澤幸祐  
山姥 山本章弘 赤松禎友

一調一管

獅子 曾和正博 森田光次

能

鷺

上野朝義 福王知登 守家由訓 三島元太郎  
大江又三郎 福王茂十郎 大倉源次郎 斉藤敦

喜多雅人 広谷和夫 中村宜成 善竹彌五郎

問 善竹彌五郎

後見 大江信行 山田雄薫 大西礼久  
大槻文藏 地謡 水田良祐 山本博通  
山本章弘 長山耕三 上田大介

終了予定 五時四十分

主催 青葉会

野口傳之輔が昭和五十四年（一九七九）に自身と同門の勉強会として発足させた青葉会の「能と囃子の会」は、各役共、東西から名手を招聘しての大曲や秘曲、高い技量を必要とする一管や一調一管などで構成され、同門の笛方のみならず出演能楽師にとつて得難い経験の場として、また、能楽ファンにとつても有望の公演として、その存在感と成果を示してきました。

引退を発表した傳之輔の卒寿記念として催される今回、番組の口開けは、森田啓子の勤める舞囃子《繪馬》。上田家当主・上田貴弘の天照大神、その長弟・拓司の天鈿女命、三弟・大介の神力雄命が、それぞれ「中之舞」「神楽」「神舞」を舞います。

一管《豊後下り端》は、天女などの登場に用いられる「下り端」（渡り拍子）の変型です。勤めるのは、傳之輔の高弟左鴻雅義です。

野口亮は、最奥の秘曲と称される「三老女」のうち、舞台生活二十五年（二〇一七）に《姨捨》を披き、此度も同じく当代最高峰の名手大槻文藏（文化功労者・人間国宝）をシテに迎えて《檜垣》を披きます。かつて舞女の誉れ世に勝れた白拍子が宿業ゆえに因果の水を汲み続けるという、金春禅竹が「妙花風」（最高至上の芸の極致）と評した名曲です。

一調一管《獅子》を勤める森田光次は、傳之輔米寿記念の会（二〇二二）において観世流宗家二十六世観世清和のシテで《鸚鵡小町》を披いた後、森田流宗家預かりでもある同宗家から、徳和改め光次の襲名を許されました。

斉藤敦は、傳之輔喜寿記念（二〇〇九）において《道成寺》を観世宗家のシテで披き、此度は京都の重鎮大江又三郎のシテに、大倉源次郎（小鼓）と三島元太郎（太鼓）の両人間国宝を迎えて能《鷺》を披きます。「鷺乱」は独特の譜を持ち、足遣いなど特殊な所作で白鷺の姿態を模しています。シテは元服前の少年か還暦後の役者が直面で勤めることが原則とされ、清澄な気品が求められます。

その他、清水の観音菩薩に妻乞いをする狂言《一九十八》や関西を代表するシテ方の仕舞など、青葉会ならではの豪華な番組をどうぞお楽しみください。

（石淵文恵）